



広島大学防災・減災研究センター  
Resilience Research Center  
Hiroshima University

広島大学公開講座2019

# 平成30年7月豪雨災害の現場から ～相乗型豪雨災害の研究最前線～



★日 時:平成31年5月29日(水) 13:00～16:00

★場 所:広島大学東広島キャンパス

情報メディア教育研究センター2階セミナー室

★参加費:4,000円(テキスト代込)

平成30年7月豪雨災害は、広範囲にわたる土砂災害や河川の氾濫が、同時多数的に発生し、西日本を中心に多くの犠牲者を出すとともに、交通や水道が寸断され各地で孤立や断水が起こるなど、地域社会に甚大な被害をもたらしました。

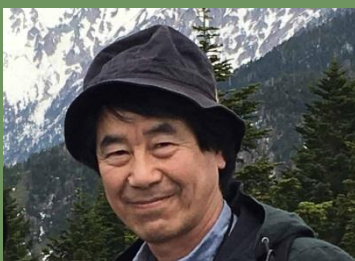
防災・減災研究センターでは、この新しい災害の現象を『相乗型豪雨災害』と名付けて、そのメカニズムの解明を進めています。

本講座は、研究者の目から見た被災地の状況と、最新の研究の状況をお伝えするものです。

1時限 13:00～13:50

『相乗型豪雨災害』の被害状況とメカニズムとは

海堀 正博  
総合科学研究科 教授



2時限 14:00～14:50

『相乗型豪雨災害』と河川の洪水、氾濫の関係とは

内田 龍彦  
工学研究科 准教授



3時限 15:00～15:50

豪雨災害時避難の課題と求められる減災行動

塚井 誠人  
工学研究科 准教授



お問い合わせ先

広島大学防災・減災研究センター TEL 082-424-4312 (平日8:30～17:15)



広島大学公開講座2019

# 平成30年7月豪雨災害の現場から ～相乗型豪雨災害の研究最前線～

広島大学防災・減災研究センター  
Resilience Research Center  
Hiroshima University

## 講義概要

1時限

13:00～13:50

『相乗型豪雨災害』の被害状況とメカニズムとは

海堀 正博 (広島大学総合科学研究科 教授)

従来の防災・減災対策の弱点や限界が顕在化した『相乗型豪雨災害』。そのメカニズムを解明することが、今後の有効な対策に資すると考えています。研究者の目で、災害を引き起こした歴史的背景やメカニズム、避難行動のあり方などに迫ります。

2時限

14:00～14:50

『相乗型豪雨災害』と河川の洪水、氾濫の関係とは

内田 龍彦 (広島大学工学研究科 准教授)

これまでにない豪雨が起こったその時、河川の洪水流はどのような状態にあったのか、また水害対策の課題とは何か、相乗型豪雨災害を軽減するにはどのような研究が必要かについて紹介します。

3時限

15:00～15:50

豪雨災害時避難の課題と求められる減災行動

塚井 誠人 (広島大学工学研究科 准教授)

西日本豪雨災害では、避難に関係する様々な課題が浮き彫りになりました。この時間では、当時の新聞報道や避難所の現況を踏まえて、避難に関する課題と、避難に関する減災行動について考えます。

注目!

公開講座終了後、ご希望の方は

VRを活用した「土砂災害の避難体験」ができます

### 【公開講座のお申込方法】

広島大学エクステンションセンターに郵送でお申し込みください。

申込用紙は、広島大学のウェブサイトからダウンロードできます。

広島大学トップ→「一般・地域の方」→

「講演会・公開講座・教員免許状更新講習等」の「広島大学公開講座」→「申込・受講について」

### 【お申し込みに関するお問い合わせ・お申し込み先】

広島大学エクステンションセンター

〒739-8514 東広島市鏡山一丁目7番1号 TEL 082-424-5691